

今日のトピック アジアの通貨動向 (2017年6月)

経済の改善が続くなか、人民元安定もあり、底堅く推移

ポイント1 人民元が一時上昇
中国当局の管理強化

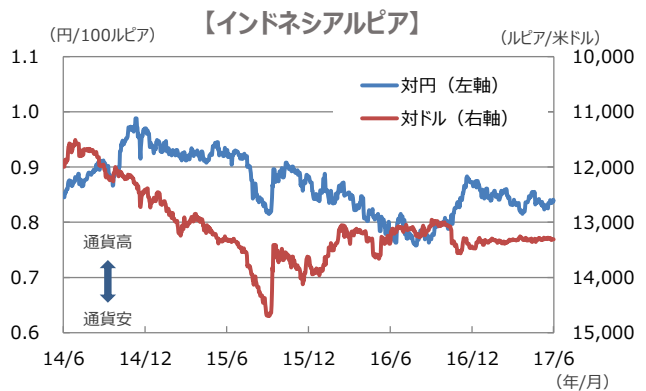
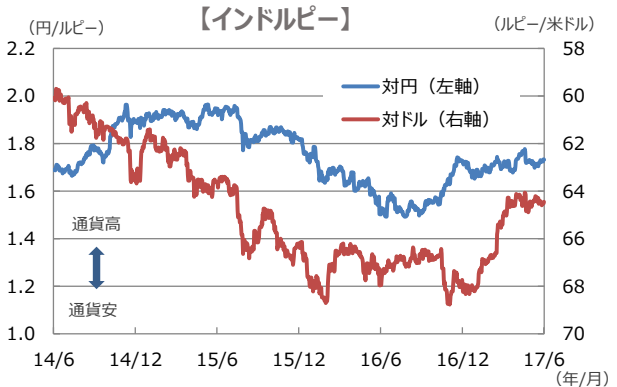
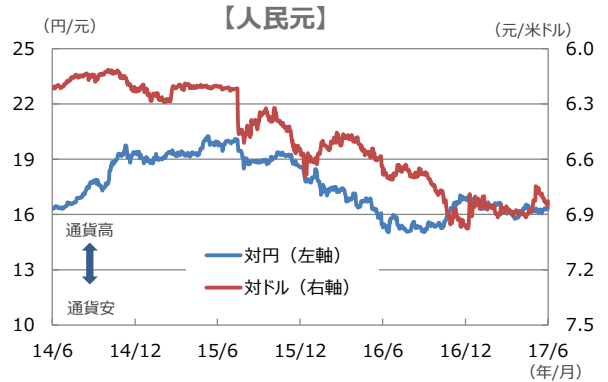
- 人民元は対ドルで安定して推移していましたが、5月下旬から上昇し、一時7カ月ぶりの水準をつけました。中国経済が堅調なことや通貨当局の為替相場の管理強化が奏功したことが背景です。
- 中国政府は7月の米中包括対話や今秋に開催される5年に一度の共産党大会を控え、元安と資金流出を起こさぬように金融の統制を強めたと考えられます。このため元は安定すると見られます。

ポイント2 インドルピーは堅調維持
インドネシアルピアは安定推移

- 経済改革期待からインドへの資金流入が続き、インドルピーは、対ドルで15年8月以来の高値圏で推移しています。同国経済は高成長が続くと見込まれ、今後もルピーは堅調を維持しそうです。
- インドネシアルピアは17年に入り、対ドルで横ばい推移となっています。インドネシア中央銀行によるドル買いルピア売り介入が要因と見られます。大手格付け会社S&Pがインドネシア国債の格付けを投資適格へ引き上げるなど経済が改善するなか、ルピアは下値不安が乏しいと思われる。

今後の展開 アジア通貨は底堅い動き

- アジア各国・地域の多くは経済状況が改善しており、成長見通しも良好です。米国の利上げは緩やかに進むと見られるなか、アジアからの資金流出は起こりにくいと思われれます。中国当局の管理強化で人民元が安定することも下支えとなり、アジア通貨は今後も底堅く推移すると予想されます。



(注) データは2014年6月27日～2017年6月27日。
対ドル(右軸)は逆目盛。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここもチェック! 2017年6月21日 インドの経済・市場動向 (2017年6月)
2017年6月16日 IMFが中国の成長率見通しを再び上方修正

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。